

こうべ環境未来館開館1周年を迎えて

環境未来館 責任者 田波 久紀夫

神戸市がゴミ問題から地球温暖化防止対策までを分かりやすく楽しみながら学習できる施設として建設した「こうべ環境未来館」が開館1周年を迎えました。

この施設の管理・運営を神戸市から委託を受けたNPO 法人グループわとしては、初めての有償大型事業であり、ゴミ問題や資源リサイクル・地球温暖化問題など環境問題全般について見学者に説明案内するという初めて体験する仕事でもありました。極端に言えば、グループわがこれから成長・発展して行けるかどうかの命運が掛かっている事業でもありました。

管理・運営や見学者案内に失敗すれば、今後このような事業に進出する事は困難になるかも知れません。直接担当する我々20名にとってはかなりのプレッシャーを感じながら、市環境局から2週間の研修を受けました。

しかし、開館までには十分な準備期間も無いままのスタートでした。すべてが初めて体験する仕事でありながら、相談する人もなく、即断即決しなければならない問題が次々と発生し、最初から試行錯誤と緊張の連続でした。また久しぶりのフルタイムの勤務でしたので、体力的にも厳しいものがありました。

幸い関係者の皆さんの知恵と全面的な協力のお陰で、来館された方々に迷惑を掛けるような大きなトラブルや事故もなく、無事に1年を経過することが出来

ました事を全員が本当にうれしく思っています。その結果、神戸市環境局からも一応の評価を頂いたものと思っており、17年度も引き続き受託することが出来ました。

この一年間に環境未来館を訪れた見学者は、予想を超えた16,000名以上もあり、コーディネーター（案内説明者）の方々も忙しい日は1日に3回（1回約2時間）案内説明する事もありました。見学者からは、ペットボトル、缶、ビンのリサイクル問題、ごみの6分別問題、地球温暖化防止対策の問題等に質問が集中しました。特にリユースとしての再生品家具・自転車の展示と提供には大変多くの方が興味を示され、申込をされました。

一方、次代のエネルギーとしての太陽光発電設備、風力発電設備等にも多くの方々が関心を示されました。最新鋭設備の資源リサイクルセンターでも異物除去作業には多くの人達が手動で行なっていることに大変驚いていました。

いかに種々の異物を混入させたまま、リサイクル品を出している人が多いかを物語っています。一人ひとりがもう少し正確に分別して、資源ゴミを出して欲しいと思います。

環境学習の一環として、市内の小中学校生の見学も多く、すでに26校から約1,600名の生徒達が来館しています。こども達はやはり資源リサイクルセンターの見学でクレーン等の



ペットボトルで出来たTシャツに驚く小学生たち

大型可動設備に興味が集まって、見学途中で立止まり、移動しなくなる事もしばしばありました。県内外の役所関係者や議員の視察、県外の各種団体の見学、ホームページを見て、県外からの問合せも多く、この施設に対する関心はかなり高いと思いました。

毎月1~2回企画・実施している環境学習講座（エコスクール）にも多くの方々が参加して頂き、特に親子で参加する講座（例えば、ケナフから学ぼう地球温暖化や、野草を探して春を味わおう等）は盛況で、わ環境部会の各グループの皆さんのご協力を得て幅広い環境問題について親子が共に学び、共に楽しむふれあいの場になっています。

その他、再生品家具・自転車の展示と提供の仕事や従来市の職員が担当していた「こどもエコクラブ」事

務局としての仕事など予想以上に幅広い分野業務をしなければならず、気力・体力をフル回転させて対応しています。

1年が経過して、全体像が掴め、運営面では比較的安定してきましたが、気を緩めずに、日々新たな気持ちで仕事をしてゆくことが大事だと思っています。

2年目も更に充実した案内が出来て「こうべ環境未来館」イコール、グループわという評価になるよう、全員が頑張るつもりです。まだ来館されていない方は、ぜひ一度お出で下さい。必ず役に立つと思います。

最後に、今後もグループわの皆様方にいろいろな面でのご協力を頂き、より良い運営をしてゆきたいと願っていますので、よろしくお願い致します。